

# ぜんそく様気管支炎（ぜんそく性気管支炎）

お子さんがかぜをひくたびにゼーゼー、ゼロゼロしてしまうという経験をしたことはないでしょうか？

そんな時は「ぜんそく様気管支炎」（ぜんそく性気管支炎とも言います）かもしれません。

「ぜんそく様気管支炎」は「ぜんそく」と違うの？

「ぜんそく様気管支炎」はいわゆる「ぜんそく（気管支ぜんそく）」と名前は似ていますが、違う病気です。「ぜんそく様気管支炎」の原因の多くは様々な種類のかぜウイルスですが、「気管支ぜんそく」はダニやハウスダスト、煙などのアレルギーが原因です。しかし、症状が「気管支ぜんそく」に似ているので「ぜんそく（の様な症状が出る）気管支炎」という名前がついているのです。

どのような特徴があるの？

「ぜんそく様気管支炎」3歳まで、特に0歳～1歳のお子さんに多くみられます。症状は咳や鼻水、時には熱といった風邪症状に引き続いて、ゼーゼー、ゼロゼロといった音（喘鳴：ぜんめい）が聞かれます。

ミルクが飲みづらいなどの症状が出ることもあります。

また、咳き込んで吐いてしまうこともあります。

低年齢のお子さんは自分で痰を出すことが難しい上に、もともと気管支が細く、感染症によって炎症を起こして気管支の粘膜が厚くなると気管支がさらに細くなってしまいます。それがゼーゼー、ゼロゼロの原因になるのです。空気のとおりが悪くなり、肺の中に十分な空気が入らなくなると息をするたびに肋骨と肋骨の間（肋間）がペコペコへこむこともあります（陥没呼吸）。

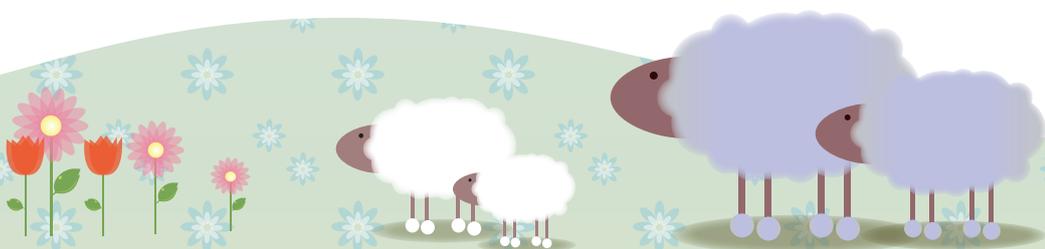
治療は？

治療は通常の風邪と同じで、特効薬があるわけではありません。脱水になると痰のきれがわるくなるので、十分な水分補給を心がけましょう。部屋の加湿も痰のきれをよくします。やや上半身を高くすると少し呼吸が楽になることがあります。

症状を緩和するために去痰剤（痰をきるお薬：ムコダイン、ムコソルバンなど）、気管支拡張剤（せまくなった気管支を広げるお薬：ホクナリン、メプチンなど）を使うことがあります。また、気管支拡張剤の吸入を行うことがあります。

ひどい場合にはステロイド剤の吸入や内服、点滴を使う場合がありますが、通常は長期に使わなければ全身的な悪影響はほとんどないと考えてよいと思います。また、使用する場合もなるべく短期に使うようにします。

≫ 裏面へ



こんな場合はもう一度受診を

- 1 高熱が続く
- 2 何度も咳で吐いてしまう
- 3 肋骨と肋骨の間（肋間）がペコペコへこむ（陥没呼吸）
- 4 顔色や唇の色が悪い
- 5 受け答えがはっきりしない

特に③④⑤の場合は夜間でも早めに救急外来を受診してください。入院が必要な場合もあります。

将来、「ぜんそく」になるの？

はじめにもお話ししたとおり、「ぜんそく様気管支炎」と「気管支ぜんそく」は違う病気ですので、ほとんどのお子さんは年齢が上がるるとこのような症状を起こさなくなります。しかし、一部にいわゆるアレルギー体質のお子さんがいて、「ぜんそく様気管支炎」の中に「気管支ぜんそく」の発作がまぎれこんでいる可能性があります。症状だけでは見分けが付きません。年齢が上がってもゼーゼーすることが多い場合は、アレルギー検査などで判断できる場合があります。

2010年12月

高嶋 能文



たかしま よしひみ

高嶋 能文

山梨医科大学卒  
日本小児科学会専門医  
日本血液学会血液専門医  
日本がん治療認定医  
日本性感染症学会会員  
日本エイズ学会会員

自由が丘メディカルプラザ 小児科

<http://www.jiyugaokamp.com/s>

TEL : 03-5731-3565

